

実践事例

1 実践の概要

(1) 取り組みのねらい

児童・保護者・教職員それぞれの目から児童の様子を見つめ、いじめの早期発見・早期対応に資する。

(2) 取り組みの内容

- 児童の交友関係調査（年2回）
- 教育相談の実施（年2回）
- 生徒指導委員会の定期開催（月1回）
- 「子どもたちの心のサイン点検票」による調査（「教師から見た子どもの学級への満足度」調査）

2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

- 各種調査をもとに、気にかかる児童を早期にとらえ、全職員が共通理解のもとで対応することができ、いじめの予防と早期発見・早期対応をすることができた。
- 「子どもたちの心のサイン点検票」による調査は、一面的になりがちな教師の見方を客観的な見方で学級の実態をとらえることができるとともに、いじめの対象になりやすい児童や孤立しがちな児童などに目を向けることができた。

3 取り組みの評価（対応についての評価）

- 本校では深刻化したいじめは現在のところ確認されていない。もちろん児童間の小さなトラブルはあるが、職員が共通理解のもとで一貫した指導を行っており、児童の学校生活は落ち着いている。また、不登校傾向の児童もいるが家庭生活が主な原因で、学校生活に大きな不安は抱えていない。

4 実践に関する資料

- 本校では定期的な調査のほかに、「子どもたちの心のサイン点検票」による調査（「教師から見た子どもの学級への満足度」調査）を行っている。これは、都留文科大学大学院教授川村茂雄氏が作成したもので、教職員のいじめに対する意識を高めるために行った。その観点も一般的とは異なる見方があることがわかり、客観的に分析できる調査であるといえる。さらに、調査結果を学級ごとに数値化・グラフ化してその傾向をとらえられるようにした。（別紙参照）
- 調査の結果、「学級に不満がある子」「不適応傾向のある子」について特に配慮し、個別に指導するようにした。

子どもたちの心のサイン点検票
教師から見た子どもと学級への満足度

(教師用)

年 組

教師から見て	児童・生徒名				学級への満足度			
①本音で自分らしく生き生きとしている子								
②とてもいい子で素直な子								
③とてもひょうきんな子								
④得意なことでも周りから一目おかれている子								
⑤周りに気をつかう子								
⑥少しのことで傷つきやすい子								
⑦教師に反抗的な子								
⑧自己中心的でわがままな子								
⑨他の子どもとよくトラブルを起こす子								
⑩すぐに不平や不満を言う子								
⑪学力か運動能力がかなり低い子								
⑫級友の話題についていけない子								
⑬級友からからかわれることが多い子								
⑭取り組みに意欲が見られずやる気のない子								
⑮友達が少なく孤立気味な子								
<p>手順 ①子ども一人一人について「教師から見て」の項目で一番近い項目に名前を書き入れる。 ②各項目ごとの人数を右の欄に書き入れる。 ③書いた人数を縦に見て合計し、下の合計欄に書き入れる。</p> <p>結果の使い方 ①名前を書き入れた児童それぞれへの対応を再検討する。 ②学級に対する子どもたちの満足度を検討する。</p>	合計(上を合計)				0	0	0	0
	学級の人数							
	パーセント(%)				#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
					学級生活に満足している子	満たされない子	不満がある子	不適応傾向のある子
				学級への満足度				